

関係各位

公益財団法人日本サッカー協会

(通達) 2017/18 競技規則改正に関する補足 (明確化)

国際サッカー評議会 (以下、IFAB) から 2017 年 9 月 25 日付回状第 11 号をもって、2017/18 年の競技規則に関する説明についての通達がありました。

各協会、連盟等において、加盟クラブ、チーム、審判員等関係者に周知徹底を図られるようお願い致します。

なお、これらの変更等は即時に有効となります。

2017/18 競技規則に関する説明

過日の IFAB 技術小委員会並びに技術諮問委員会及びサッカー諮問委員会の審議を経て、IFAB 役員会は、2017/18 競技規則を下記のとおり変更することで明確にすることとしました。これらは、即時に有効となります。

競技規則の修正

交 代

- 交代は、各チーム最大 5 人まで行うことができる。ただし、ユースの試合における最大数は、各国協会、大陸連盟または FIFA が決定することとなる。

説 明

「修正」の改正は、試合に参加する競技者数を増やすことにあった。しかし、ユースの試合で過去 5 人以上の交代を認めていたが (2017/18 競技規則改正により)、意図せずその数を少なくする国が出てきてしまった。今回、競技規則を明確にすることによって、ユースの試合において 5 人以上の交代を行うことができるようになった。

日本協会の解説

IFAB は 2017/2018 の競技規則の改正において「各国サッカー協会の自由度を広げ、各国協会がその国内サッカーに合わせて競技規則を修正し、自国のサッカー発展のために利益を得られるようにすべき」という考えが明確に示されました。今回の変更は、その考え方をもとにユース年代の試合において、より多くの競技者がプレーできる機会を増やすことにあります。年長者 (シニア) については、国内の主要大会で既に「再交代」が使用されており、多くの競技者がプレーする機会を得ています。なお、各国のトップディビジョンに属するクラブのトップチーム、または国際「A」代表チームが参加する競技会での交代は、最大 3 人までと変更はありません。

第4条 - 競技者の用具

スローガン、メッセージ、イメージ及び広告

次のガイダンス（2018/19 競技規則第4条に挿入されることになる）は、競技会主催者、各国協会、大陸連盟また FIFA が競技者の用具上に何を明示できるのか決定する際の援助となる。

原則

- 第4条は、競技者、交代要員、交代して退いた競技者が着用するすべての用具（衣服を含む）に適用される。その原則は同様、テクニカルエリアにいるすべてのチーム役員にも適用される。
- 次のものは、（通常）認められる：
 - ・ 競技者の番号、氏名、チーム紋章やロゴ、サッカーの試合やリスペクト、高潔性（インテグリティ）の促進を首唱するスローガン/エンブレム、更には、競技会規定あるいは各国協会、大陸連盟または FIFA の規定により認められる商業的広告。
 - ・ 試合にかかる事柄：対戦チーム、試合日、大会またはイベント、会場
- 表示が認められたスローガン、メッセージまたはイメージは、シャツの前面、袖またはアームバンド上に限られるものとする。
- スローガンやメッセージあるいはイメージは、キャプテンのアームバンド上のみに表示されることが認められるケースがある。

競技規則の解釈

スローガン、メッセージまたはイメージが認められるかどうかの解釈をするとき、**第12条（ファウルと不正行為）**に目を向けるべきである。そこには、競技者が次の不正行為を行った場合、主審は対応する必要があるとしている：

- 攻撃的な、侮辱的な、または、下品な発言や身振りをする。
 - 挑発したり、嘲笑したり、相手の感情を刺激するような身振りや行動をする。
- これらの部類に入るスローガン、メッセージまたはイメージは、認められない。

“宗教的な” また “個人的な” ものについては、比較的判断しやすいが、“政治的”なものについてはやや曖昧である。しかし、次のようなスローガン、メッセージまたはイメージは、認められない：

- 生存、死去にかかわらず、個人に関するもの（公式競技会名の一部である場合を除く）
- 都道府県や市町村、地域または国家レベルの政党、政治的組織、結社等
- 都道府県や市町村、地域または国家政府あるいはそれらの部局、事務所または部署
- 差別的な組織
- 数多くの人々を傷つけようとする目的を持つまたは行動する組織
- 特定の政治的行動やイベント

国内、国際的な大きな記念イベントを開催するとき、相手チーム（そのサポーターを含む）及び一般観客のことを慎重に配慮する。

競技会規定には、具体的に、表示が認められるスローガン、メッセージ、イメージ及び広告の大きさ、数、表示位置に関して、詳細な規制や制限を含めることができる。スローガン、メッセージまたはイメージに関する論議は、試合や大会が始まる前に解決しておくことが勧められる。

日本協会の解説

※決議事項 議題No.4 参照

第11条 - オフサイド

オフサイドポジションの判断は、“ボールにプレーしたか触れたか” 最初のコンタクトポイントを用いる。

説明

この定義は、VAR（ビデオアシスタントレフェリー）がスローモーションを用い、（オフサイドポジションにいる競技者のチームメイトが）ボールをパスした際、（オフサイドの判断のために）最初にボールに触れたポイントか最後に触れたポイントかを判断するのに必要である。

第12条 - ファウルと不正行為

チームメイト（またはチームの交代要員やチーム役員）に対する反則

ボールがインプレー中、競技者が自分のチームの競技者、交代要員またはチーム役員に対して反則を犯した場合：

- フィールド内の反則 - 直接フリーキック（またはペナルティーキック）
- フィールド外の反則 - 主審が警告する（イエローカード）または退場を命じる（レッドカード）ためにプレーを停止した場合、反則が犯された場所に最も近い境界線上からの間接フリーキック

日本協会の解説

これまで、チームメイトや同じチームの交代要員やチーム役員に対する反則後のプレーの再開方法が不明瞭だったため、今回、正しい再開方法が明確に示されました。

2つの反則が同時に、または、続けざまに犯される

（短い間隔であっても）警告（イエローカード）に値する異なる2つの反則が犯されたならば、2つの警告が犯されたことになる。例えば、競技者が：

- 必要な承認を受けることなくフィールドに入り、無謀なタックルを犯したりファウルやハンドで大きなチャンスとなる攻撃を止める等

手や腕でボールを扱う

物を投げることは（ハンドの反則ではない）直接フリーキックの反則であるので、ゴールキーパーが物を投げて、自分のペナルティーエリア内でボールや相手に当たったならば、ペナルティーキックが与えられ、警告（イエローカード）または退場（レッドカード）となる。

日本協会の解説

競技者が物を投げボールに当たった場合に、物は競技者の手の延長とみなし、ハンドリングの反則として整理されていきました。しかし、今回の説明で投げること自体が反則ということが明確に示されました。

用語集

キック

- ボールは、競技者が足（くるぶしからつま先まで）またはくるぶしで接触した時にキックされたことになる。

説明

これにより、ボールを“キック”する部位を明確にすることになる（特にボールをゴールキーパーにパスすることなどに関して）。脛、膝または他の部位による場合は、“キック”ではなく“プレー”することになる。

競技規則は、グラスルーツから最上位レベルのサッカーまで、サッカーが公平・公正で、誰もがプレーでき、そして楽しむために、極めて重要なツールです。IFAB(国際サッカー評議会)は、引き続き競技規則がサッカーの公平・公正さ、高潔性（インテグリティ）のために役立ち、保全できるように業務を推進して参ります。

皆様方のご高配に感謝いたします。また、疑義ありましたら遠慮なくご連絡ください。

国際サッカー評議会

事務局長 ルーカス・ブラッド